

1. 序 言

新しい自然科学研究機構がスタートして3年目に入りました。また、分子科学研究所は平成17年5月に創設30周年を祝いました。国、岡崎市、分子科学コミュニティー、その他の多方面に亘る多くの方々のご支援に対して、改めて、お礼を申し上げたいと思います。

今世紀には全包括的世界観に基づく新しい科学の誕生が期待されています。国の財政状況が極めて厳しい中においても新しい科学の流れを発信できる様に、物質科学から生命科学に跨る広い範囲の基礎科学の推進に独自の哲学を持って臥薪嘗胆、研鑽を積まねばなりません。「真善美」の意識を常に持ち、更にはその上にあると言う「妙」の意識をも追究する努力が必要です。

平成18年度からは、アジア・コア・プログラムが認められ、長年の希望でありましたアジア諸国との共同研究および若手の育成に力を入れていくことが出来ます。既存の分子研独自の分子科学国際共同研究事業との連携を取りながら、国際共同研究の推進、アジアにおける基礎科学の興隆に貢献したいと思っています。

本分子研リポートは、研究所の現状と評価、そして将来計画等の議論をまとめ毎年発行しているものです。研究所の全貌が把握できるように企画されています。平成17年度は、電子構造研究系、極端紫外光科学研究系、及び岡崎統合バイオサイエンスセンターの評価が行われました。評価に当たられた諸先生方には、この場を借りまして改めて、お礼を申し上げます。

世界における分子科学の中核として更なる発展を期するために、各方面の方々のなお一層のご支援を心よりお願い申し上げます。

平成18年4月
自然科学研究機構
分子科学研究所 所長
中村宏樹